

「大手町温泉」を正式に確認 三菱地所が2016年春にも営業展開

三菱地所は2014年7月15日、東京・大手町で進める再開発計画の敷地内で温泉の湧出を確認、名称を「大手町温泉」とすると発表した。
深さ1500メートルからくみ上げた湯が、中央温泉研究所で温泉と認定された。

産経新聞

三菱地所は大手町で地上31階、高さ170メートルの事務所棟と、地上18階、高さ90メートルの宿泊施設棟の2棟の高層ビルを建設中で、2016年春に完成する予定。

温泉は両棟で活用する計画で、事務所棟には日帰り温浴施設の設置を検討。大手金融機関ほか、周辺のオフィス街からの利用を想定している。

温度は36・5度で湧出量は1分当たり240リットル。医療的な効果が期待され、治療目的に利用される「療養泉」に分類され、疲労回復や健康増進に効果があるという。

温泉の活用方法としては、平常時は大手町地区の就業者などに入浴サービスを提供するほか、宿泊施設棟の温浴施設での利用を通じ、東京五輪開催も見据えて外国人観光客などに「日本ならではの魅力」を発信する。

また、災害時には温浴施設を開放し、災害活動要員やボランティアなどの衛生環境向上に役立ててもらうという。

読売新聞

三菱地所は15日、東京・大手町のオフィス街で進めている再開発事業で、温泉の掘削に成功したと発表した。

「大手町温泉」と名付け、日本政策投資銀行などの跡地に2016年春の完成を予定するホテル棟とオフィス棟で利用できるようにする。

ホテル棟(地上18階、地下3階)には、星野リゾートが運営する和風旅館「星のや東京」が入り、日本文化に関心のある外国人観光客の需要を見込む。オフィス棟(地上31階、地下4階)は温泉付きフィットネスクラブを備え、ビジネスマンの憩いの場としたい考えだ。

災害時には温泉施設をボランティアらに臨時で開放する方針だ。

深さ1500メートルの掘削作業で湧出を確認し、公益財団法人・中央温泉研究所で分析した結果、温泉と認定された。温泉の温度は36・5度で、湧出量は毎分240リットル。泉質は含ヨウ素・ナトリウム・塩化物強塩温泉で、治療用に利用できるとされる療養泉に分類されるという。

